

1. 回答数と回答率

生徒の回答数 33(回答率 100%、長欠除く)、保護者の回答数 10(回答率66.6%)、教員の回答数 20(回答率95.2%)であった。

肯定的意見とは回答 A(そう思う)・B(ややそう思う)の合計の数値(%)で、である。

2. アンケート集計における傾向

昨年度のアンケート集計との比較をすると、保護者においては10の項目で肯定的意見が増加し、1つの項目で減少している。

また、生徒における肯定的意見が 10%以上増加した項目が1つある反面、10%以上減少した項目が1つあった。ただし、すべての項目で肯定的意見は 75%を上回り、80%を切っているのは 1つの項目だけであった。

教職員においては12項目で肯定的意見が増加しており、そのうち3項目で 10%以上ポイントが増加した反面、27の項目で肯定的意見が減少し、そのうち15項目で 10%以上ポイントが減少した。

3. 授業について — 生徒 4, 5, 18, 21、保護者 3、教員 6~10

生徒の肯定的意見が「4 教え方に工夫をしている先生が多い」が100%、「5 授業の初めに段取りを示してくれる先生が多い」が100%、「18 授業などでコンピュータやプロジェクターが活用される機会がよくある」は96.9%、「21 学校は 1 人 1 台端末の効果的な活用のために取り組んでいる」が93.9%と、いずれも昨年度より高く評価されている。また、保護者の「3 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」は100%と、こちらも昨年度より高く評価されている。

教員の取り組みとしても7~10の項目については昨年度よりポイントがさらに増加しており、「6 年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」については昨年より6.5ポイント減少してしましたが 82.4%と高い数値となっている。「楽しくわかりやすい授業」の実現に向けて、今後毎日努力し続けなくてはならない。

4. 生徒によるアンケート結果から

生徒の肯定的意見が 80%を切っているのは 1つ。

・「1 学校に行くのが楽しい」84.8%は昨年度と比べると1.4ポイント減少した。4年生では70.0%と少し低くなっているが、4年生の9割の生徒が「学校生活についての先生の指導」に納得し8割の生徒が「学校に来ること」に意味を見いだしている。今後も努力を惜しまないようにしたい。

・「6 悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生が多い」は93.8%、「7 先生はいじめなどについて真剣に対応してくれる」は92.0%、「8 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」は87.9%と肯定的意見の割合が高く維持されているので、今後もより相談しやすい関係を築いていきたい。

・「14 部活動は、自分にとって有意義な時間だ」が78.6%と大幅に減少した。部活動に参加して

いない生徒にも回答してもらったからかと考えられる。ただ、部活動に参加していない生徒が多いことについては、部活動は生徒の主體的・自主的な活動が基本なので簡単ではないが、何らかの対策が必要かと思う。

5. 保護者によるアンケート結果から

今回、ほとんどの項目で昨年度より高評価をいただいたなかで、「10 この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」は70.0%と昨年度から15ポイントも減少してしまった。夜の時間帯での参加ということで難しいこともあるのだと思われるが、生徒たちの頑張っている姿を是非見に来ていただけたらと思う。

6. 教員によるアンケート結果から

・「6 年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」82.4%、「8 この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している」90.0%、「9 生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」94.4%、「36 学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」100%と指導方法の研究・工夫・改善への取組みが見られるが、「5 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は72.2%と大きく減少している。今後も、「教員の間で、授業方法等について検討する機会」を積極的に持ち、「他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の研究・工夫・改善」にさらに努めていきたい。

・「14 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」94.7%、「20 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」95.0%と学校生活全般にわたって生徒の指導について肯定的意見が増加した一方、「12 生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」35.0%、「13 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」57.9%は他の項目と比較して数値が低く、「15 生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができています」70.6%、「16 この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」80.0%は肯定的意見が大きく減少している。教員自ら問題意識を持ち改善していく必要がある。

・「25 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」38.9%、「26 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」44.4%、「27 学年会、分掌会議、委員会が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」52.6%、「28 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」33.3%、「35 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」50.5%など肯定的意見が昨年よりさらに減少した項目がある。学校組織として改善のための取組みが必要である。

・「32 この学校では、図書館が生徒に活用されている」の肯定的意見が77.8%と昨年度の数値からさらにポイントが増加した。先生方の様々な改善のための取組みが実を結んだ結果である。